

News Release

Kanadevia
Technology for people and planet

力ナデビア株式会社

2025年9月19日

国連気候変動枠組条約第30回締約国会議（COP30）（ブラジル・ベレン開催）、 環境省主催「ジャパン・パビリオン」へ出展します

カナデビア株式会社は、このほど、2025年11月10日～21日（予定）にブラジル連邦共和国のベレン（パラー州都）で開催される国連気候変動枠組条約第30回締約国会議（COP30）※1において、「ジャパン・パビリオン」※2に出展する企業の1社として展示テーマが環境省に採択されましたので、お知らせします。当社のジャパン・パビリオンへの出展は、2年連続2回目となります。

当社は、「廃棄物資源をまるっと使い切って世界の日常を脱炭素」をテーマとし、近年、改めて対策の必要性が世界的に高まってきている、温室効果ガス（GHG）の一つであるメタンの排出削減・回収・利用に着目し、有機性廃棄物の資源利用・適正処理技術を中心としたソリューションを展示します。具体的には、メタン発酵施設におけるメタンを中心としたバイオガスの生成、そのバイオガス中に含まれる CO₂ と再生可能エネルギー電源を利用した水素製造装置（水電解装置）で生成したグリーン水素からのメタネーション（触媒反応）装置を用いた e-メタン生成、分離膜を用いたバイオエタノール製造施設による高純度バイオエタノールの生成、さらにはバイオ炭化炉では主に家畜ふん尿からのバイオ炭生成を提示します。さらに、メタン発酵残渣等は焼却発電設備等を用いてエネルギーとして利用することを提示します。このように、有機性廃棄物の適正処理という観点からの多様な技術・システムを適用することにより、廃棄物の衛生的な処理や生ごみ等の直接埋立の回避によるメタン排出削減への貢献だけでなく、メタン発酵・回収・利用によるエネルギー転換、バイオ炭による炭素貯留等気候変動対策としての貢献が期待できます。

当社は今後も様々なステークホルダーとともに、温室効果ガス排出削減と環境負荷低減に向けて挑戦していきます。

※1 国連気候変動枠組条約締約国会議（COP）は、国際機関や各国の政府・自治体・NGO・企業等のリーダーらが集結し、地球温暖化抑制に向けた国際的な方向性やルールについて議論する国際会議であり、1995年から開催され、今回で30回目を迎えます。

※2 「ジャパン・パビリオン」は、日本の優れた技術や取り組みを情報発信するための場として、近年の COP において毎回、環境省が主催しています。

【COP30 概要】

会期：2025年11月10日～21日（延長の可能性あり）

開催地：ブラジル連邦共和国 ベレン（パラ州都）

ご参考：環境省 報道発表資料 [国連気候変動枠組条約第30回締約国会議（COP30）ジャパン・パビリオン設置に伴う開催地展示の採択結果について](#) | [報道発表資料](#) | [環境省](#)

【前回 COP29 での当社展示】

当社は、COP29 での初出展において、廃棄物処理工程を中心とした脱炭素ソリューション技術をパッケージ提示し、多くの訪問者から高い関心を寄せられました。具体的には、CO₂高濃度回収を可能とする廃棄物焼却処理システムを軸に、ごみ焼却発電、風力発電、海水淡水化、水電解水素製造、メタネーション、CO₂の回収・利用等を組み合わせ、当社が目指す循環経済と GHG 排出ネット・ゼロを可能とする廃棄物処理システムを提示し、123 の国・地域から大統領や閣僚等要人も含め 1,000 名を超える来場者を集めました。即時のごみ処理技術の必要性を訴える声やごみ問題解決への期待と当社技術への安心感等、多くの反響があり、当社の技術や製品が世界で求められ、循環経済や脱炭素に寄与するものであることを改めて認識しました。

ご参考：プレスリリース「カナデビア株式会社、COP29 で初出展 - 新たな廃棄物処理システムと脱炭素技術を提案し、世界の脱炭素化と資源循環に貢献」([FY2024-88.pdf](#))

【2025 年日本国際博覧会（大阪・関西万博）日本館におけるメタン発酵・バイオガス発電】

当社は、2025年4月13日に開幕した「2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）」において経済産業省が出展する日本館向けに、当社が設計・施工したメタン発酵によるバイオガスプラントを会場に納め、運営を行っています。同プラントでは、会場内で発生した生ごみを原料とし、微生物によるごみの分解・メタン発酵によって発生したバイオガスで発電を行っています。

（終）